ROTARY INTERNATIONAL 2720

第2720地区 Rotary TAMANA RC

玉名ロータリークラブ週報

2023～2024

世界に希望を生み出そう

R　I　会　長	ゴードンR・マッキナリー
地区ガバナー	膳所　和彦
会長	田中　雄三郎
幹事	深見　京司
公共イメージ委員長	井上　幸

例会日 ■ 毎週木曜日／12：30～13：30
例会場 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺50-4　司ロイヤルホテル内
事務局 ■ 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺540-1-102

令和5年7月20日　No.2569

玉名RCメールアドレス　jimu@tamanar.club
ホームページアドレス　http://tamanar.club

【会長の時間】田中　雄三郎　会長

皆さんこんにちは、会長に就任して、はや、二週間が経ちました。今日の会長の時間は、私の仕事の事、浄化槽のこと、皆さんが日頃使われている下水道のことを少しお話ししたいと思います。

お昼を食べて気持ちもゆっくりされてるかと思いますが、気分が悪くなるという方は、耳をふさいどいください。そもそも下水とは我々が生活する上で一番大切な水と変わりないくらい大事な物です。電気、水道、ガス（石油）、電話などなどいろいろなライフラインがありますが、私は生活排水に関わる仕事ととして、合併浄化槽の保守点検、清掃、維持管理、また、玉名市下水道浄化センターの中央監視室の運転管理を担っております。

浄化槽は、この玉名市全域での下水道計画地区以外の市街地では、国、県、玉名市より、補助金が出て、合併浄化槽の設置が、義務付けられております。ここ有明海沿岸の自治体では、有明海が閉鎖水域ということもあり、厳しい排水の水質基準が設けられています。その為に、せっかく設置された浄化槽や、下水道を計画通りに排出基準を守って、川や海へ使った水を戻してやるべく、お手伝いをさせてもらっています。

過去に、阪神大震災が起きる前までは、全国的に、浄化槽はやめて、全ての地域を下水道へ計画を進めて行くというような国、国土交通省などの計画が着々と進行して、私も、親の仕事をついだものの、生末が心配な時期もありました。

が、しかし、下水道化が100％進んでいた神戸市では、阪神大震災の折に、地震でズタズタになった家や、ビル群等下水道が一切使えないことをニュースで見て驚愕な思いをした覚えがあります。

　そのすぐ後から、やはり下水道化を100％進めるのではなく市街地や、中山間地区には、下水道化より、浄化槽を進めた方が良いとの考察がなされて、今は、下水道計画を見直され、特に税収が人口減少に伴い、今後少なくなる自治体では、
　お荷物扱いする始末です。大きな大都市では、無くてはならないのですが、ここ熊本県、玉名市全域での下水道計画や、大型排水、農業集落排水事業などは見直されてきました。
　何事も作るには、皆様の税が使われていきます！ご存知の通り、赤字国債が今年は最高額になるとのことです。下水道を作るには、管路（道を掘って埋設）や終末処理場の建設などには、今までは、各自治体の年間予算の大部分を占めていました。確かに水をきれいにするのは大切なことですが、やり方の問題、思い切った将来の目標を変更する事にやぶさかでなかった事は、東北地震、熊本地震の経験をしてきた我々には、ほんとうに端境期であったと思われます。

　皆様の生活する環境の上で、水を使うことは今は無くてはならないことです。ここ熊本、特に玉名市の下水道の事に触れてみますと、特に町部、石貫から下流域、菊池川右岸地区、玉名中学校校区、岱明町は、下水道の整備が進捗しています。特に玉名駅裏、六田地区、松木地区は、昭和56年に下水道化され、それ以前は、大雨が降るとすぐに床下浸水、玉名駅前の浸水、JR鹿児島本線の不通で悩まされていました。当時の地権者の方々には悩みの種で不毛の地とさえ言われていましたが、この下水道化されたおかげをもちまして、一切、浸水することもなく、玉名市では一等地として、財産価値が高騰しました。そんな玉名市の下水道化ですが、一つだけ難点があります、それは雑排水を流すだけではなく、雨水排水が流れにくい地区の雨水が大量に入ってくる合流式の下水道であります。合流式下水道は当時は合法でしたが、湛水防除としての役割を担っておりました。その恩恵を受けられた皆様には申し訳ございませんが、今は玉名市下水道は、雨の多い日は高速炉化機をつけて、一斉に消毒をかけて強制排水して、垂れ流し状態です。帳面上はきれいな水を流している事にはなってはいますが、現状は、どうしてどうして大変です。しかし、今になっては、この大雨の降る異常気象環境下では、3年前の人吉市の大災害のような雨量の時には、逆に、災害から守ってくれています。その時玉名市下水道浄化センター現場では、我々職員達が、寝ずの番をして、交代でフルでのポンプ操法で、玉名市全域での災害を最小限に抑え込んだ事は間違いありません。

　流せ、流すな、電気代、ディーゼル燃料代などがかかりすぎていると、玉名市上下水道課からは、のちにとんでもない事を言われましたけど、今では、感謝されています。
　あちこちの自治体の終末処理場での故障、不具合、被災した下水道施設は数多く、お陰で玉名市下水道浄化センターは、その後も古い施設ではありますがごまかし、ごまかしの運転で今もがんばって市民の環境衛生を守るべく日々努力しております。
たとえ、もし下水道施設が被災しても、下水道計画地区以外の玉名市民の方々は、安心してください、流れてますよ！こんな時のために、下水道施設だけに頼らずに、浄化槽を進めたおかげをもちまして、浸水しても、その地区だけの被害で、他の地区では特に支障なくいつもの生活環境にすぐ戻ります！

食後の楽しい時間に誠にくさい話をお聞かせいたしましたが、玉名ロータリーの今度の会長は、話は下手だけど、そんな仕事をしているのだと、心の隅にでも、
置いておいてください。
これで会長の時間を終わります、ご清聴ありがとうございました。

【幹事報告】

■例会変更

熊本南RC　7月31日　18:30～　→7月31日　12:30～
※暑気払い新入会員歓迎会例会の為

荒尾RC　8月16日　休会
8月23日→8月22日
※熊本第一グループ合同例会の為

玉名RC　8月24→8月22日　12:30～　山鹿プラザ
※熊本第一グループ合同例会の為

会員数	**51（46）名**
出席数	**26名**
出席率	**56.5％**

★大下委員長　7/20例会

スマイル

前回	￥34,000
今回	￥19,000
合計	**￥53,000**

田中会長	深見幹事	東会員	堀本会員	本田会員
浜田会員	松﨑会員	福田会員	鶴田会員	吉岡会員
馬氷会員	西嶋会員	西村会員	宮本会員	渡邉会員
田村会員	坂本会員	渡邉(知)会員	高尾会員	

【私の履歴書】
前田　世輝　会員

皆様、こんにちは。今月入会させていただきました、前田世輝と申します。
よろしくお願いいたします。
私は、1982年、昭和57年に京都で生まれました。
現在40歳です。

両親が職場結婚ということで、その後３歳の時に、父親の実家である玉東町に移り住みました。
そこから、玉東町立の木葉小学校、玉東中学校で義務教育期間を過ごします。小さい頃は、近くの川や田んぼを中心に、近所の子らといろいろな遊び方を考えながら遊んでいました。

そして、小学５年生の時にちょっとした転機がありました。同じ地区内ではありましたが、引っ越しまして、それと同時に町の少年野球チームに入りました。そこから、高校まで野球を続けることとなります。

高校は玉名高校で、入学して間もない頃、最初の１年生だけの練習でキャッチボールをしている時に、なぜかそれまでしたことのなかったキャプテンをしようと決意しました。その日から、同級生をはじめチーム内の人に、「自分たちの代では、俺がキャプテンをやる」と公言していました。当然ですが少なからず、よくも悪くも、同級生からも先輩からもそのことについての意見が出ることとなります。ただ、そのことで自分の行動に責任と誇りを持つことを意識するようになったように思います。
賛成派の声には、期待を裏切らないように、
反対派の声には負けずに認めてもらえるように、
仕事以外では唯一自分に厳しく過ごした時期だったかと思います。

そして、私自身が決めることではなかったのですが、結果それは実現できました。
よく耳にする、有名選手の卒業文集などのように明確に目標と意志を持って、
なんと言われようと公にしながら、取り組むことで、夢に少しでも近づけることができるのかなと思う体験をした高校生活だったと思っております。その後はそんなに受かる可能性のある大学がない中、たまたま受かってしまった福岡大学に進学します。経済学部でありながら、先ほどの卒業文集ではないのですが、小学校時の卒業文集で私の夢として書いた「学校の先生になる」ということを、なんとなく思い出し別途教職課程という教員免許取得ためのコースも選択し、大学生活を送りました。ろくに学校には行かなかったのですが、アルバイトだけは真面目に取り組んでいるような生活でした。

そして就職活動の時期に入りますが、私はなにもしておらず、ただ少し前進するために大学４年の途中からは学習塾でのアルバイトを始めます。そんな中、その年なんの準備も気持ちもなく、採用試験も受けませんでしたが、見事卒業はできました。しかし、免許のための単位が６単位３科目分足りずに、翌年は引き続き学習塾でのアルバイトを続けながら、その６単位だけを取るために少し学校に通いました。
そして意を決して、免許取得見込みということで、教員採用試験も受けました。私の受験する中学校社会科の熊本県採用枠は１名です。結果は230人中228位でした。臨採の教員の方々もいらっしゃる中、何もしていない自分が採用されることはないだろうと悟りました。逆にですが、やはり本気の意志がないとそれに向けた行動もせず、結果も出せないということを学んだ大学生活だったと思います。

そして、就職浪人のようになってしまった私は、次に興味のあった士業系の資格に目をつけて、その経験ができる総務、経理系の募集がある会社を4社ほど受けました。
そこでは、もはや中途採用枠なので、経験のあるご年配の方々との競争に勝たないといけない状況でした。当然のごとく採用されることはありませんでした。

そんな中、ひとつの税理士事務所が見つかり、履歴書とPRレポートを送付しました。知らない番号からの電話があり、一回会ってみたいと思うと言われ、面接に行きました。そこで、仕事で最低限必要な知識だから、簿記３級を取れば採用いただけるということになり、数か月後合格証を持参し、入社が決まりました。そこが15年間勤めました現税理士法人近代経営というところです。

1年目は、毎朝6：30に出社し、先輩方の机拭きから始まります。そこでは、社会人としての知識や教養を一から教えていただきました。

現在は、そこで学んだことを生かしながら、その周辺業務を行う会社を設立し、お客様に喜んでもらえる、お役に立つ仕事をするという意志を持って、業務に取り組んでいます。
以上で「私の履歴書」とさせていただきます。

【私の履歴書】
髙尾　義臣　会員

髙尾義臣と申します。よろしくお願いします。
1969年5月17日生まれの５４歳になります。
妻と長男、長女、次女の３人の子供がおります。
妻とは大学時代に知り合い、卒業してから交際を始めて結婚しました。
私たち夫婦は「お互いの領域には踏み込まない」的なところがあって、自分で言うのも変ですが、それが夫婦円満なところだと思っています。私は好きな事を自由に出来ているので幸せだと思います。
子供は全員成人して就職し、家をでておりますので夫婦二人で築地で暮らしております。

私は岱明町で生まれました。父は大型ダンプで建設資材の運送と販売、母は当時、祖父と散髪屋を営んでおりました、兄弟・姉妹は姉と妹で私は真ん中の一人息子になります。両親とも仕事に忙しく一緒に住んでいた爺ちゃん、婆ちゃん子として育ちました。幼い頃は爺ちゃん・婆ちゃんの愛情を受け過ぎたせいか、かなりの肥満児で、当時の写真を見ると顔がコンパスで書けるぐらい丸く、体型も縦も横も同じような感じでした。太ってましたが運動は好きでキャッチボールが得意で小学2年の時には大人のソフトボールの試合に出た記憶があります。

　学歴は睦合小学校、岱明中、玉名高校、福岡大学になります。
小学5年の時に睦合小にサッカー部が出来ました。肥満児だった私は職員室でサッカー部顧問の先生から「サッカーすると腹が引っ込むぞ」とヘソを押された記憶とその感触が今でも残っています。入部する生徒が少なく、クラスから何名かジャンケンで負けた者が入部せなんという事になって、そこで負けたのが、私とサッカー出会いでした。それから現在までずっとボールを蹴り続けて30年以上になります。ジャンケンで負けたことが運命でした。

中学時代も、高校も、大学も勉強せずにサッカーばかりしてました。
中学ではキャプテンになり打倒玉中サッカー部を目指して
チーム作りをしましたが、練習がキツかったのと、
自分があまりに細かく言い過ぎたのか他の部員から反感を買い、
孤立して辛い思いを経験しました。この時の経験は
今でもリーダーシップを考える時には脳裏から離れません、
良い経験をしたと思っています。

高校の時は中学の経験からキャプテンは逃れ、1学年上の先輩の県ベスト８の壁を越えようとプレーに集中しようとしましたが、他の部員との温度差を感じながら高体連１回戦敗退に終わり、落ち込みました。

それで、もっとサッカーしたいという欲求から、九州から出るなと言う親の反対を聞かずに関西の大学をサッカー枠で受験しましたが見事に不合格でした。不本意ながら親の言う事を聞いて福岡大学に入りましたが、やっぱりサッカーしたくて福大サッカー部へ入部を試みましたが、当時は体育学部中心で法学部だった私は入部を諦めてしまいました。
たまたま校内を歩いているときに、声を掛けられたサークルが社会人リーグに所属しているサッカーチームでした。そのチームは入ってから分かったのですが福岡県では強豪チームでした。
そのおかげで大学時代は思い切りサッカーすることが出来て全国大会にも出場しました。大学卒業後も現在までサッカーをやっておりますが、２０代、４０代、５０代で全国大会を経験出来たのも、大学時代のお陰だと思っております。

職歴はと言いますと、父親が病気を患っていましたので大学卒業したら早く家に帰らないと無理をして早死にするんじゃないかと思い、何処にも就職せず家業を継ぐことにしました。まずは大型ダンプの運転を覚えなければと思い、毎日朝５時から夕方５時までダンプの運転に明け暮れていました、しかし家を継いで１年ぐらいで父が他界し、悲しさと絶望感で何も手が付きませんでした。この時、思ったのは、この仕事には何の興味も面白味も感じていなく、ただただ父親の負担を軽くして長生きしてくれさえしてくれればいいということでした。

自分のモチベーションはそこでした。ですから他界した後は、「さあ早く違う事探そう、何の仕事ばしようか？？」ということでした。
しかし、自分の思いとは逆に取引先からはじゃんじゃん注文が入り、ダンプでがんがん走る日々がすぐ戻ってきて、親父が天国から仕事をさせてるなとか思いながらダンプを運転していたことを思い出します。

それから３７歳の時に転機がきました。３５歳前後の時に、今の㈱丸光商事の社長で当時の専務から「会社を手伝ってくれないか」と御話しを頂きました。
私は自分の会社もヤッとの思いで母と経営していたのに、他の会社の手伝いなんか出来るわけがない！！と思って断り続けていたのですが、その方からの熱心なお誘いから、自分中で段々挑戦する気持ちが出来てきて、この会社に飛び込んでみようと思いました。
挑戦とは親が作った会社で仕事することは誰でも出来る、他会社の組織に入ったら自分はどこまで仕事出来るのだろうかという事でした。
反対する母親を説得しました。当然、家業の会社も今まで通り経営していく前提です。
自分の会社で出来ないことが出来る可能性を秘めた今の会社で、今では仕事に生きがいを感じています。

そして、この度、玉名ロータリークラブへ入会する御縁も頂き、会社やここにおられる皆様へも感謝としか言えません。
何もわかりませんので御指導を今後ともよろしくお願いします。